

※著作権取得済み

障害ある人 働ける農園

安全な屋内型 企業に貸し出し

障害者の就労を目的とした企業向け貸農園「わーくはびねす農園Plus」が横浜市都筑区で始動し、二十一日、開園式が開かれる。障害者の就労支援を行うエスプールのプラス（東京都千代田区）による雇用促進の取り組みで、同社による貸農園の開設は県内で初めて。契約企業四十二社、百二十九人の障害者雇用の創出を目指す。

（吉原康和）

横浜・都筑 22日開園式

わーくはびねす農園の仕組み

同社が農園を開設し、障害者の雇用を希望する企業、企業の食材にしたり、子ども側に貸し出し、就職を望むも食堂へ提供したりする。横濱に開園する農園は鉄企業は農園の賃料や紹介料、筋コンクリート三階建て、などを支払い、障害者を雇い、延べ約一千六百平方メートルの屋内型。障害者の特性によって、三人一組で働く。収穫は体温調節が苦手な屋外作業が難しい人もいいため、安全に作業ができるように、同社が屋内に開発した水耕栽培装置を備えている。

障害者雇用促進法によって民間企業に課せられる法定雇用率は昨年三月に2.2%から2.3%に引き上げられたが、達成企業は半数にも満たない。同社はこれまで、屋外型と屋内型

の農園を全国に三十三園開設。四百五十社以上の契約企業を通じ、二千七百余人の雇用を創出した。

厚生労働省の二〇二二年版の資料によると、全国の障害者九百三十七万人のうち、一般企業に就業中の十人からは約四十六万人と五分一に満たないという課題があったが、改善されつつあると指摘した上で、「貸農園事業は、障害者雇用の一つの受け皿として期待したい。障害者が長く働くことは本人の自信にも実績にもなる」と評価している。

屋外作業が難しい障害者も働きやすい屋内型農園＝2020年夏開園の東京都板橋区にある農園で（エスプールプラス提供）

収穫野菜 販売や子ども食堂へ提供も

22日に開園式を迎える「わーくはびねす農園Plus」は横浜市都筑区で、本社へ「あさひ」から

川崎市内で就労移行支援を行っている福祉事業所「ジョブサポートフルービー」の浅見鈴子・障害者総合支援事業課長は「企業側には障害者の特性の理解が希薄な点、障害者側にも自分たちの特性を現場に発信できていないという課題があったが、改善されつつある」と指摘した上で、「貸農園事業は、障害者雇用の一つの受け皿として期待したい。障害者が長く働くことは本人の自信にも実績にもなる」と評価している。